

北陸学院大学

「教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画」について

(1) 教員養成の目標（理念）

北陸学院は石川県における最初の私立女子中等教育機関として1885（明治18）年の金沢女学校の創設以来、今日まで135年の歴史の中で、地域社会の変化と要請に応え、幼児・初等教育機関から高等教育機関までを有する総合学園へと発展してきました。その間、社会のニーズに対応した教育内容を提供しつつ、時代に左右されることのない普遍的な価値観として、「主を畏れることは知恵の初め」（『旧約聖書』詩編：111編）という建学の精神を一貫して継承しています。すなわち「恵みをお与えになる神（主）への畏敬の念が愛に基づく知恵に人を導き、真実に良く生きるための土台となる」との考えを根幹として教育を行っています。

教職課程においては、高度化・複雑化する社会環境に適応可能な専門的知識や技術を修得した教員養成をめざしています。子ども教育学科では、乳幼児期から青年前期の子どもの心身の成長・発達を広い視点からとらえ、それぞれの関係性を理解できる保育者・教育者の養成を行っています。

<学科>

子ども教育学科では、これからの教員に求められる専門的知識や高度なコミュニケーション能力、さらにそれらを生かすためのキリスト教主義に基づく人間観、世界観、価値観を育むことで、責任を持った主体的な行動ができる保育者・教育者の養成をめざしています。また、人格形成の重要な時期にあたる幼児期から青年前期の子どもの心身の発達を分断することなく連続した一つの発達過程ととらえ、子どもへの適切な指導や教育活動ができる教員の養成を行います。

具体的には、取得希望の免許種・資格に合わせたコース制を取り入れ、段階を追った学びができるように履修モデルを示しています。

幼児教育・保育コースでは、幼稚園教諭免許と保育士資格の2つを取得し、幼稚園・保育所・認定こども園・施設など、多様化する教育・福祉のニーズにこたえる教育者・保育者を養成します。幼児・児童教育コースでは、幼小連携に対応しながら、発達障がいのある子どもへの支援に加え、小学校における英語教育や外国語活動も指導できる教育者を養成します。初等・中等教育コースでは、小学校教諭と中学校・高等学校教諭（英語）の免許取得を可能とするコースで、小学校段階から高等学校段階までの教育連携・接続に貢献し、英語に強い教育者を養成します。

(2) 当該目標を達するための計画

教員養成の目標を実現するとともに、教員に求められる適性及び資質を学生が十分理解した上で4年間の学びを行っていくことができるよう、また、教育実習や保育実習が意義あるものとなるよう、入学時に全学共通で教職課程オリエンテーションを実施しています。さらに、免許種別に、ガイダンス・プレ実習・ボランティア体験を継続的に行い、4年間の履修を予め学生が理解し、見通しを持った学びができるよう履修の手引に履修モデルを記載しているほか、事前・事後指導をはじめとした学生へのサポート体制を採っています。全学組織である教職課程運営部会の指導の下、教育実習・実習指導の運営及び責任を持つ「コース長会議」及び「コース担当者会議」を設け、充実した実習指導体制を確保しています。

上記に加え、教職課程の適正な運用のために、石川県教育委員会及び金沢市教育委員会との連絡・協力を進め、課題解決能力及び専門的知識・技術を有した教員の養成に努めています。

北陸学院大学短期大学部

「教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画」について

(1) 教員養成に対する理念・構想

北陸学院は石川県における最初の私立女子中等教育機関として1885（明治18）年の金沢女学校の創設以来、今日まで135年の歴史を数え、地域社会の変化や要請に応え、幼児・初等教育機関から高等教育機関までを有する総合学園へと発展してきました。その間、時代の変化に対応する教育形態に変化はあっても、時代に左右されない普遍的な価値観として、「主を畏れることは知恵のはじめ」（『旧約聖書』詩編：111編）という建学の精神を一貫して継承しています。すなわち「恵みをお与えになる神（主）への畏敬の念が愛に基づく知恵に人を導き、真実に良く生きるための土台となる」との考えを根幹として教育を行っています。

短期大学部食物栄養学科においては、食のプロとしての栄養に関する専門性を有する栄養士と、教育者として必要な資質とを併せ持った教員（栄養教諭）の養成に一貫して努力しています。具体的には、自らの専門的な学びを生かし、児童生徒が正しい知識に基づいた「食の自己管理能力」や「望ましい食習慣」を身につけることができるよう、質の高い「学校給食の管理能力」と「食に関する指導力」を持つ、栄養教諭の養成に努めています。

<学科>

本短期大学部食物栄養学科は、栄養士養成校として地域で最も高い実績と信頼を得ており、卒業後の管理栄養士国家試験合格率および受験者数は北信越地区でもトップクラスであり、実践的能力に優れた食のプロとしての栄養士を輩出し続けています。

栄養教諭は学校給食の管理を行う栄養士業務と、学校教育において食に関する指導を行う教育者としての立場を併せ持つ専門職です。学校教育に携わる者として必要な資質と栄養に関する専門性とを併せ持つ教育職員として、その専門性を十分に発揮し学校給食を生きた教材として活用し、効果的に食に関する指導を行うことが期待されています。本学においても栄養士としての実践的な学びに加えて、学校教育で行われる食育指導に必要な学びを並行させることによって、双方の知識・技術や指導力を総合化して、優れた食の専門家の育成を目指しています。

また、本学には教員養成課程（大学における幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭の養成）が設けられており、教員養成に必要な指導ノウハウが蓄積されていることに加えて、栄養士養成に関しては地域で最も長い経験と伝統、実績を有し、優秀な栄養士を各界に輩出できる基盤が整っています。具体的には、栄養学の知識・理論を修得し、的確な食生活指導、食育の推進活動、食文化の継承と発展等に資する実践的指導力を身に付けた専門家を養成しています。本学が有する人的・物的資源を一層効果的に活用できる栄養教諭養成課程の設置は、本学科から優秀な栄養教諭を輩出することを通して、「次代を担う専門家の育成」を急務とする地域社会の要請にも応えています。

(2) 当該目標を達成するための計画

これらの理念を実現するとともに、教員に求められる適性及び資質が学生に十分理解された上で、2年間の学びを行っていくことができるよう、また実習が意義あるものとなるよう、学科独自のガイダンスのほかに、入学時に全学共通で教職課程オリエンテーションを実施します。本学科では2016年度よりカリキュラムの見直しを行い、教職課程を選択する学生の場合、栄養士法に定める必修科目の修得に加えて、教育職員免許法に定める科目の履修修得が学習の過度な負担を増すことのないように配慮しつつ、1年次から教職課程科目の履修を併行しています。さらに、同じ法人に小学校と幼稚園を有する環境を活用し、栄養教諭に求められる食育指導の実践的な場としています。